



報道機関 各位

議題 1

2019年度～2028年度までの10年計画です。
22世紀を見据えた教育施策を展開していきます。



さいたま市PRキャラクター つなが竜 ヌウ

記者発表資料
平成31年3月26日（火）
問い合わせ先：教育政策室
室長：野津
担当：竹内、田方
電話：829—1626
内線：3921

「第2期さいたま市教育振興基本計画」を策定しました

さいたま市教育委員会では、本市の教育における基本理念や目指すべき教育の方向性を示し、教育に関する施策を総合的・体系的に進めていくことを目的として、「第2期さいたま市教育振興基本計画」を策定しました。

1 法的な位置付け

本計画は、教育基本法第17条第2項に規定される、地方公共団体が策定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画です。

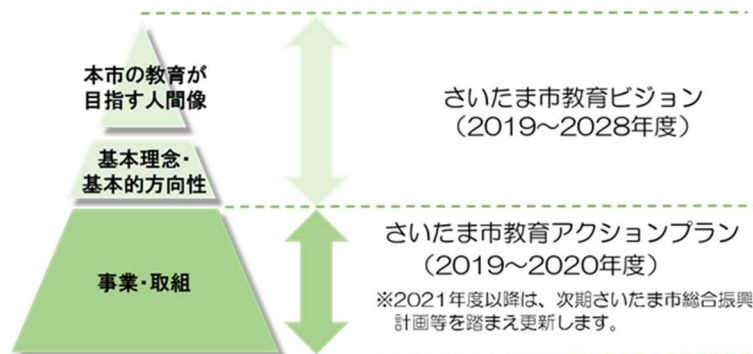
2 計画の対象

本計画は、本市の教育行政に係る基本的な計画であり、さいたま市教育委員会の所管する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の学校教育及び生涯学習を計画の対象範囲としています。

3 計画の構成と計画期間

本計画は、本市の教育の今後10年間を見据えた基本理念等を示す「さいたま市教育ビジョン」【計画期間：2019年度～2028年度】と、計画開始後2年間での事業・取組を示した「さいたま市教育アクションプラン」で構成しています。

● 計画の全体像：



4 本市の教育が目指す人間像

世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人

- グローバル化、情報化など予測が困難な未来に対応し、多くの情報の中から何が必要かを主体的に判断し、自ら立てた問いの解決を目指し他者と協働しながら最適な解を見付け、新たな価値を創造することができる人
- 多様な人々との関わりの中で共感し、人間ならではの感性、創造性を発揮しつつ、自らの可能性を高めながら、よりよい人生、よりよい社会を創り出していくことができる人
- 生涯にわたって質の高い学びを重ね、夢と志を持ち、生きがいを見付け、健康で幸せに暮らすことができる人

5 基本理念及び基本的方向性

人生100年時代を豊かに生きる「未来を拓くさいたま教育」の推進

【基本的方向性1】 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成

- 他者と協働しながら新たな価値を創造していく力を育成する。
- 夢を実現しようとする高い志を持って、可能性に挑戦する力を育成する。

【基本的方向性2】 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成

- コミュニケーションを通じて人間関係を築く力、豊かな情操や規範意識、ものごとを最後までやり抜く力、社会的・職業的自立に向けた能力・態度等を育成する。
- 生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成する。

【基本的方向性3】 人生100年時代を輝き続ける力の育成

- 生きがいを持ち、生涯にわたって質の高い学びを続けられる環境を整備する。
- 人生を豊かに生きるために、学んだことを生かして活躍できる環境を整備する。

【基本的方向性4】 スクール・コミュニティによる連携・協働の充実

- 学校・家庭・地域・行政の連携・協働体制を構築し、地域の教育力の向上を図るとともに、地域に信頼される学校づくりを推進する。
- 地域の多様な教育資源を活用し、地域コミュニティの活性化と、地域発展の担い手となる人材を育成する。

【基本的方向性5】 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備

- 新しい時代の教育に向けた学校の指導体制を構築する。
- 安全・安心で質の高い教育環境を整備するとともに、学校安全体制を推進する。

6 アクションプランにおける重点事項

「未来を拓くさいたま教育」を推進する「PLAN THE NEXT 3つのGで日本一の教育都市へ」

さいたま市教育アクションプランでは、本市の教育が目指す人間像の実現に向け、これまで本市が取り組んできた様々な教育施策をさらに磨き、市民一人ひとりが、自己実現を図っていくうえで推進力となる、「PLAN THE NEXT 3つのGで 日本一の教育都市へ」という考えを掲げ、22世紀を見据えた教育施策を展開することとしました。



主に学校教育において、子どもたちに「真の学力」をはぐくむ事業・取組に**Grit**を、「国際社会で活躍できる力」をはぐくむ事業・取組に**Global**を付すとともに、学校教育と生涯学習において、全ての人に「生涯学び続ける力」をはぐくむ事業・取組に**Growth**を付しました。

7 具体的な事業・取組、目標指標

教育施策を体系化し、61の事業・取組、114の目標指標を掲げました。

8 計画策定の経緯

- | | | | |
|--------|-----|---|---|
| 平成29年度 | 10月 | … | 児童生徒、保護者、校長、教職員にアンケート調査。 |
| 平成30年度 | 6月 | … | 国の「第3期教育振興計画」が閣議決定される。 |
| | 8月 | … | 有識者会議において意見聴取を実施。 |
| | 12月 | … | 市議会12月定例会において本計画の素案を報告。
パブリック・コメントを実施。(12/20～1/21) |
| | 2月 | … | 有識者会議において意見聴取を実施。 |
| | 3月 | … | 教育委員会会議において議決。(3/14) |

議題1

「第2期さいたま市教育振興基本計画」を策定しました

～人生100年時代を豊かに生きる「未来を拓くさいたま教育」の推進～



さいたま市PRキャラクター つなが竜 ヌッ

2019年度～2028年度までの10年計画です。
22世紀を見据えた教育施策を展開していきます。

さいたま市教育委員会 管理部教育政策室

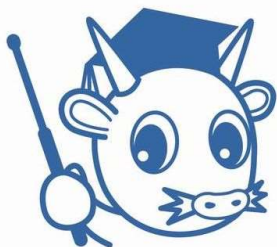
第2期さいたま市教育振興基本計画のポイント

教育の目指す人間像を設定

- 教育についてのアンケート結果を踏まえ、**本市の未来**や**2030年の社会**を見通して、**教育の目指す人間像**を掲げた。

時間軸・空間軸の視点を導入

- 人生を「**連続した学びの時間**」としてとらえた。(時間軸)
- **学校・家庭・地域**が互いの垣根を低くし、**連携・協働**した取組を進める中で、市民一人ひとりが生きがいを持って**自己実現**を図っていく視点から、空間を捉え直した。(空間軸)



2030年以降の社会の未来像を描き、その実現に向けて教育がどのような役割を担うべきかを明確にしました。さらに、「人生100年時代」や「超スマート社会(Society5.0)」への対応も視野に入れた計画です。

第2期さいたま市教育振興基本計画の構成

第1章 さいたま市教育振興基本計画の策定について

- 1 計画策定の背景・趣旨
- 2 計画の位置付け
- 3 計画の対象範囲
- 4 計画の構成と計画期間

第2章 さいたま市教育ビジョン

- 1 教育を取り巻く社会経済情勢
- 2 国における教育目標・教育政策の動向
- 3 本市の教育施策の成果と課題
- 4 本市の教育が目指す人間像
- 5 さいたま市教育ビジョンの基本理念と基本的方向性

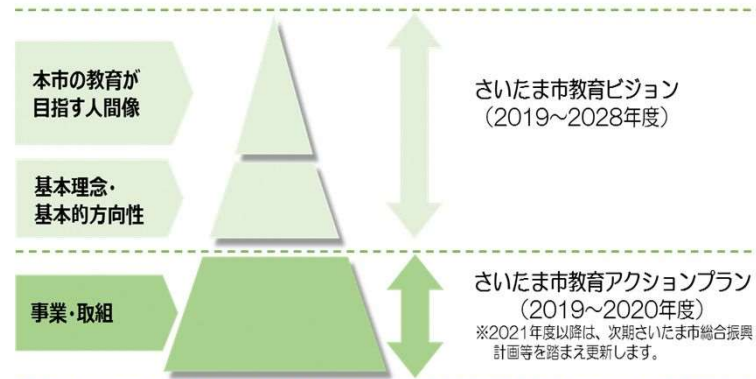
第3章 さいたま市教育アクションプラン

- 1 アクションプランにおける重点事項
- 2 アクションプランの施策体系・進行管理
- 3 基本的方向性・施策展開・事業・取組

第4章 資料編

- 1 計画策定までの経緯
- 2 計画の策定体制
- 3 教育についてのアンケート結果報告書(概要版)

さいたま市教育振興基本計画の全体像



大きく分けると、ビジョン編とアクションプラン編で構成しています。



計画の概要について

法的な位置付け

・教育基本法第17条2項に規定される、地方公共団体が策定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画(=**教育振興基本計画**)

本市の他計画との関係

・本市の市政運営の最も基本的な計画である「2020さいたま希望(ゆめ)のまちプラン」や「さいたま市教育大綱」とも整合が図られている。

(三位一体で教育行政を推進)

計画の対象範囲

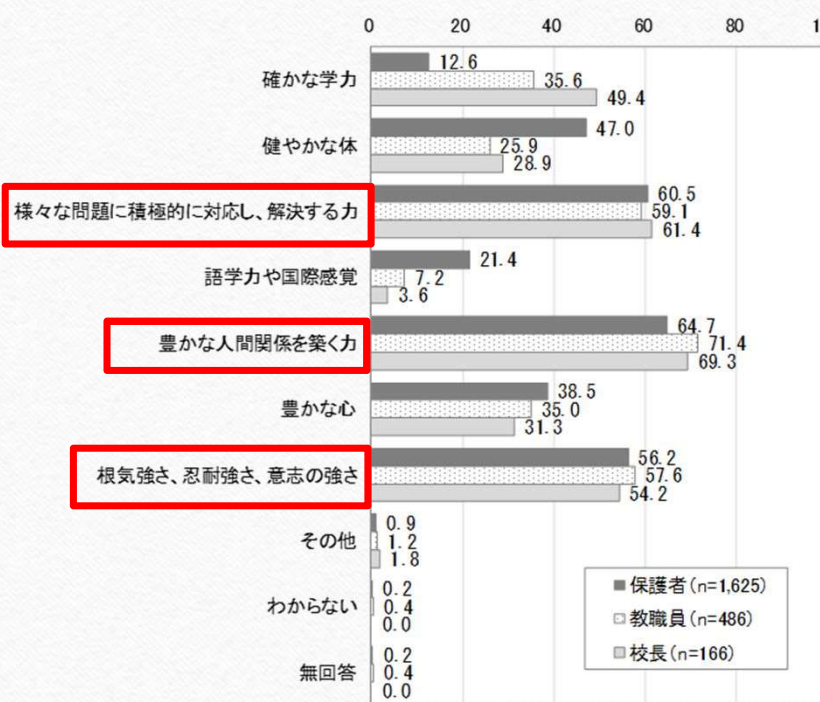
・さいたま市教育委員会の所管する**小・中・高等・中等教育・特別支援学校の学校教育及び生涯学習**

国の第3期教育振興基本計画(平成30年6月閣議決定)を参酌しつつ、本市の総合振興計画及び教育大綱とも整合を図っています。



■ 計画策定に向けた基礎資料（教育についてのアンケート調査）

【これからの社会を生きるために、子どもに必要なと思われる資質・能力】 ※3つまでの複数回答



- ・平成29年10月 実施
- 対象：児童生徒・保護者・校長・教職員（合計約3,800名）
- 本計画策定に向けた基礎資料として分析

保護者・校長・教職員ともに、
変化の激しい社会を生き抜くためには、
「人間関係を築く力」「問題解決能力」
「根気強さ」が最も重要であると考えて
いることが分かりました。



出典：教育についてのアンケート調査報告書（平成29年度さいたま市教育委員会実施）

計画策定に向けた視点（2030年以降の社会を展望した教育の役割）

予測される2030年以降の社会

- 少子高齢化により生産年齢人口の減少が加速化する。
- 超スマート社会（Society5.0）の実現に向けて、人工知能（AI）・ビッグデータの活用等の技術革新が一層進む。
- グローバル化の急速な進展に伴い、世界の国々の相互影響と依存度合いが高まり、地球規模の人類共通の課題解決が必要。



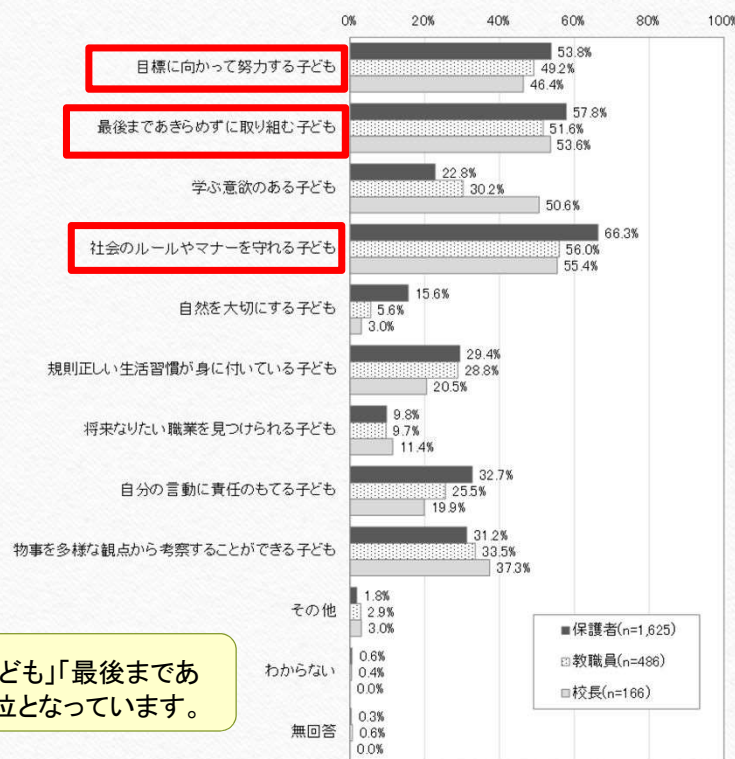
こうした変化の激しい時代において求められる視点

- 教育活動を通じ、社会の活力を維持・向上させていくこと。
- AIでは代替できない人間ならではの感性、創造性の発揮。
- 多様な他者と人間関係を築く力、やり抜く力、粘り強さの構築。



アンケートでも、望ましい子どもの姿として、「目標に向かって努力する子ども」「最後まであきらめずに取り組む子ども」「社会のルールやマナーを守れる子ども」が上位となっています。

【望ましい子どもの姿】 ※3つまでの複数回答



出典：教育についてのアンケート調査報告書（平成29年度さいたま市教育委員会実施）

本市の教育が目指す人間像

世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人

- グローバル化、情報化など予測が困難な未来に対応し、多くの情報の中から何が必要かを主体的に判断し、自ら立てた問いの解決を目指し他者と協働しながら**最適な解**を見付け、**新たな価値**を創造することができる人
- 多様な人々との関わりの中で**共感**し、人間ならではの感性、創造性を発揮しつつ、自らの可能性を高めながら、よりよい人生、よりよい社会を創り出していくことができる人
- 生涯にわたって**質の高い学び**を重ね、夢と志を持ち、生きがいを見付け、健康で幸せに暮らすことができる人

これは、本市に生きる一人ひとりが、学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感し、自らの能力を高め発揮しながら、豊かに生き、自分らしい輝きを放ち続ける姿そのものを表現したものです。



第2期さいたま市教育振興基本計画の基本理念

「人生100年時代を豊かに生きる『未来を拓くさいたま教育』の推進」

- 【基本的方向性1】 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成
- 【基本的方向性2】 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成
- 【基本的方向性3】 人生100年時代を輝き続ける力の育成
- 【基本的方向性4】 スクール・コミュニティによる連携・協働の充実
- 【基本的方向性5】 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備 ※

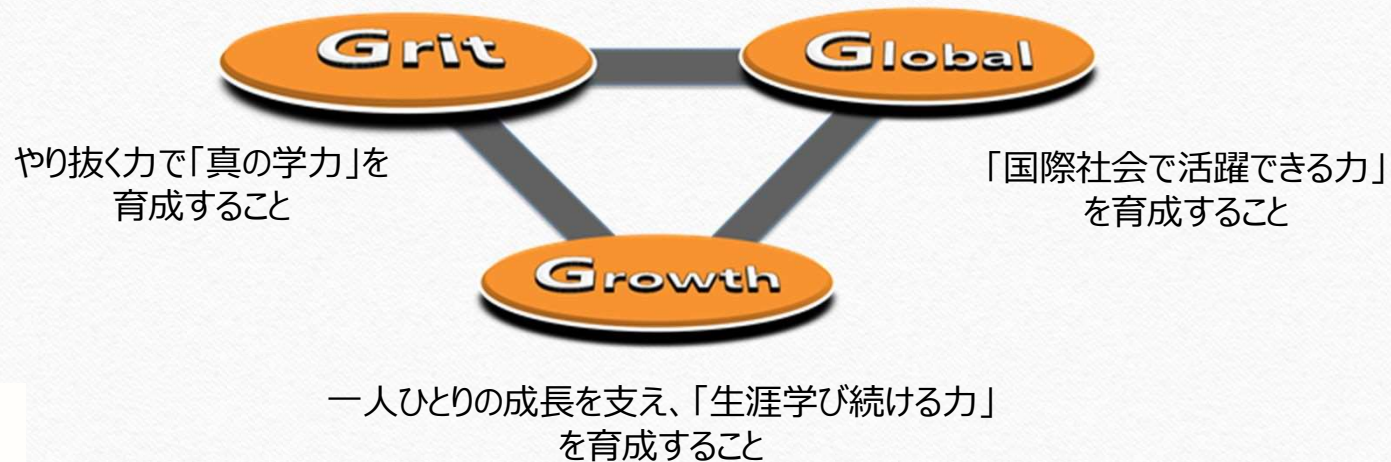


本市の教育が目指す人間像を実現するために、以上の5つの基本的方向性を柱に、教育施策を展開していきます。

※ 「未来を拓くさいたま教育」とは、全国や政令指定都市に先駆けた教育施策や本市独自の教育施策を展開し、我が国においてトップクラスの教育を確立してきた本市ならではの特色を活かした魅力ある教育のことです。

「さいたま市教育アクションプラン」の重点事項

「未来を拓くさいたま教育」を推進する 「PLAN THE NEXT 3つのGで 日本一の教育都市へ」



本市の教育が目指す人間像の実現に向け、これまで取り組んできた様々な教育施策をさらに磨き、市民一人ひとりが、自己実現を図っていくうえで推進力となる新しい考えを掲げ、22世紀を見据えた教育施策を展開することとしました。

「さいたま市教育アクションプラン」で掲げた事業・取組

主に学校教育において、子どもたちに「真の学力」をはぐくむ事業・取組に**Grit**を、「国際社会で活躍できる力」をはぐくむ事業・取組に**Global**を付すとともに、学校教育と生涯学習において、全ての人に「生涯学び続ける力」をはぐくむ事業・取組に**Growth**を付しました。

主な事業・取組

■ 保育所・幼稚園等・小学校の連携

Grit

Growth

目標指標 … 保幼小連携教育研修会の参加者数 2018年220名 → 2020年230名へ

■ 「グローバル・スタディ」推進事業

Grit

Global

目標指標 … 全国学力・学習状況調査の英語平均正答率 2018年未実施 → 2019年政令指定都市第1位へ

■ 博物館・美術館・科学館事業の充実(科学館)

Grit

Growth

目標指標 … 「若田宇宙飛行士アカデミー」に参加して「とてもよかった」と回答した子どもの割合 2018年85% → 2020年90%へ



61の事業・取組
114の目標指標
を設定しました。

計画策定の経緯

- | | | | |
|--------|-----|---|---|
| 平成29年度 | 10月 | … | 児童生徒、保護者、校長、教職員にアンケート調査を実施。 |
| 平成30年度 | 6月 | … | 国の「第3期教育振興計画」が閣議決定される。 |
| | 8月 | … | 有識者会議において意見聴取を実施。 |
| | 12月 | … | 市議会12月定例会において本計画の素案を報告。
パブリック・コメントを実施。(12/20~1/21) |
| | 2月 | … | 有識者会議において意見聴取を実施。 |
| | 3月 | … | 教育委員会会議において議決。(3/14) |



計画の推進に当たっては、“より高みを目指す”という視点を持ち、社会経済情勢や市民ニーズの変化に的確に対応しながら、PDCAサイクルに基づく進行管理を行い、先見性を持ち、大胆に、機動力を生かして様々な課題に対する的確かつ弾力的に取り組んでいきます。